知事と区市町村長との意見交換

（稲城市、日野市、狛江市、町田市）

令和８年 10 月 22 日(木)
16 時 45 分～17 時 45 分

【稲城市】

○行政部長　それでは稲城市・髙橋市長との意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からよろしくお願いいたします。

○知事　髙橋市長、今日はどうぞよろしくお願いいたします。まず、市制施行 55 周年、誠におめでとうございます。御祝い申し上げます。また、２月に「ポケパーク カントー」が開業し、南山エリアに新たな賑わいが生まれていると伺っております。これからもこの賑わいが稲城市、市内、そして多摩地域全体の活性化につながることを期待いたしております。それでは早速、地域の課題、また都政に関する御要望などについてお聞かせいただきたいと思います。よろしくどうぞ。

○稲城市長　ありがとうございます。まず３点、稲城市が現在取り組んでいることについてお伝えします。

最初のスライドをお願いいたします。

「自走式ロープウェイ推進協議会」というものですけれども、自走式ロープウェイ、「Zippar」という製品名で新しい交通システムを今企業が開発をしているところです。実は今知事がおっしゃった南山の「TOKYO GIANTS TOWN」、この開発に伴って、（当初は南山の、いわゆる区画整理が終わった段階で、バスの新路線を走らせていただけるという話だったのですが、残念ながら断られました。丘陵部について公共交通が今ない状態でまちづくりを進めているわけですが、）今回この新交通システムを何とか導入できないかなということで今検討しております。自走式電動のロープウェイ、しかも運転手がいらないので、この走る稼働を増やしていけば、バス路線以上の運行力は維持できるということであります。

※上記の（）内の発言は、一時的に音声が不明瞭となった箇所

○稲城市長　ただ何分新技術でございますので、法制度あるいは予算面での裏付けが取れておりません。稲城市単独で導入するというのは非常に難しいので、今後とも国あるいは東京都さんにも御支援をいただくために、この導入について検討している市の協議会を作りました。それが「自走式ロープウェイ推進協議会」ですけれども、現時点では私が会長で、副会長として沖縄県豊見城市長さん、そして宮城県富谷市長さん、事務局が福島県南相馬市長で行っています。近々また東京都にもこういった内容について詳細をお願いしたいと思いますので、その節はよろしくお願いいたします。

次のスライドをお願いいたします。

稲城市のサイエンススクール、サイエンス特例校の開設についてお伝えをします。実は稲城市では人口も子供も増えておりまして、どこの学校も生徒数がいっぱいなのですが、ただニュータウン地区で最初に入居した、いわゆる向陽台地区については一部高齢化で少子化が始まっている所があります。城山小学校が今非常に小規模校でございまして、近隣では統廃合というような噂もありますが、何とかこの城山小学校を統廃合せずに残すための施策を展開できないかということを教育委員会にも考えてもらって、特色のある学校にしようということで、今回はサイエンススクールとして特別なプログラムを組みました。稲城市は指定校制度でありますけれど、この城山小学校については、ここへ通いたい方は市内のどこからでも通えるよう、準備をしてまいりました。「未来探究科」という特別な授業科目を作って、実験・ものづくり、ICT、AI プログラミング、Science English などを融合した、新しい理系の人材育成のための小学校を作っていこうということであります。

次のスライドをお願いします。

３点目がですね、稲城市の取組として、不登校支援の新モデルについて取り組んでいます。

従来からあります「チャレンジクラス」、この仕組みを使って、稲城市の第五中学校の余裕教室、３教室を使って、このような３つの柱で不登校支援の事業を行っていこうということです。

１点目は安心できる居場所づくりということで、授業開始は９時 20 分、普通の生徒と顔合わせをしなくていいように、不安を感じずに誰とも会わずに登校できるように、安心できる居場所を作ります。教員とスクールカウンセラーが連携をして手厚い支援をしようということです。

第２に社会とつながる体験活動。実際の授業・座学だけではなくて、学校内の花壇整備であるとか、市内のお祭りに参加するとか、体験活動を通じて不登校に対応していこうということです。

最後に個に応じた学びということで、学習支援シートを用いて、個人に個別の学習計画を自分で立てる。それに伴って自己選択・自己決定の機会を充実させて、不登校の解消になればいいなというふうに思っております。

以上の３点について、今稲城市が取り組んでいるところでございました。以上でございます。

引き続き、要望事項２点についてお願いしたいと思います。

まず１点目は地域公共交通、特に路線バス等についての東京都の支援の継続・拡充をお願いしたいというものであります。

御存じの通り多摩地区については都営交通がほとんどありませんので、そういった意味では三多摩格差、公共交通の格差も非常に大きいわけであります。それを補完するために多摩地区で全国的にも発祥されたいわゆるコミュニティバスというものをどこの市でも行っています。稲城市では「i バス」というふうに呼んでおりますが、一般的なやり方と同

じように、バス会社にこのコミュニティバスの運行を委託して、そして運賃収入で賄えない部分、経費から運賃収入を引いた赤字部分を各市で補填をしています。そんなやり方でありますけれども、以前から非常に大きな財政負担となっていたわけです。今回特に運転士不足、そして「改善基準告示」と言われておりますけれども、労働時間の規制強化ということで、どこの市でも運行会社から減便あるいは路線の廃止、こういったことを依頼されております。

稲城市は従来５コース７台で「i バス」を運行していましたが、今回それが３コース５台になりました。しかも今まで請け負っていただいた会社からは一時期は全廃にしてほしいというところを何とか交渉して２コース３台を何とか確保したのですが、どうしても１コースはできないということで、別のバス会社にお願いをして何とか３コース５台を維持しております。

こういった中で、もちろん東京都さんからコミュニティバスの再編に関して月 70 万８千円の補助金をいただいているわけでありますが、これが 60 ヶ月限定ということで、５年経ったら補助金が切れるということであります。コミュニティバスというのはこれからも続けていかなければいけませんので、額の増額もそうですけれども、できればこの補助制度は恒久的にしていただきたい、そのことが１点目であります。

次に２点目になりますが、同じく地域交通、バスの関係でありますけれども、東京都の「シルバーパス事業」における運賃補助の財政的な支援の問題であります。

「シルバーパス事業」については東京都さんで実施されていますので、あえて説明は省かせていただきますが、基本的にはシルバーパスの適用については、それを含めて東京バス協会の方に任されている。総額の補助金も東京都からバス協会の方に配分がされ、それぞれの各バス路線への配分についてもバス協会との協議ということであります。

１点は、このコミュニティバスについては元々対象外だというふうなことを言われながら、一部当初認められていたものを継続して今も支払われているわけでありますけれども、実額が払われていない。これなぜかというと、結局東京都からバス協会に交付されるシルバーパスの経費が実額にそぐわない形になっている。実際にはもっと多くの方が使っているのだけれども、それが固定額でずっと来ているということで、その配分についても民間会社に任されているので、我々の取分というのを増やしちゃうと自分たちの取分が減ってしまうので、いろいろな理由をつけてコミュニティバスへの配分というのは非常に少なくなっているのが現状であります。

そこで、実際には我々の市で、令和７年度ベースで言うと約 5,000 万円シルバーパスの利用者がいたとしまして、それに対して払われる部分というのが、実際には 800 万円ぐらいしかもらっていないということになります。

これが令和８年度、路線変更になった関係で、既存の路線以外は認められないということをバス協会に言われていまして、８年度では残念ながらその配分金が０になる可能性があると言われております。

我々のコミュニティバスの運行に当たっては、シルバーパスが利用できるにもかかわら

ず、その配分金がほとんどもらえない、０になるということで、これが全額市の負担になっているということがあります。

是非シルバーパス制度全体の経費について、今年度から実際の利用数をICカード化によって可視化するということを聞いておりますけれども、それに応じた総額の確保と、それぞれのコミュニティバスの実額の交付をお願いしたいなというふうに思っています。是非これについては御検討いただければというふうに思っています。以上であります。

○行政部長　髙橋市長、ありがとうございました。それでは知事から御発言お願いいたします。

○知事　御要望の中の最初のバスの運転士さんの確保ですね。この件はもう本当に各地から同じようなお声もいただいております。バス運転士の不足によって減便され、また廃止が進んでいる中で、運転士を確保する。そのために多角的な対策を、関係者と連携しまして速やかに講じるということが何よりも重要でございます。

都は先月、事業者の皆さんたちと連携した採用につながるイベントを実施をいたしまして、運転士の魅力の発信などを行っております。

また今年度から免許の取得、また人材育成への支援を通じまして、女性、また若い人たちから採用ができるように、そしてまた育成できるように取り組むバス事業者を後押しいたしております。

また工科高校がございますけれども、その生徒の業界への勤労意欲を高めるそのような取組を行って、バスの運転士の確保に努めているところでございます。

それからまた、始めたけれど定着してもらわないといけない、そのために居住に係る支援であるとか、最新のデジタル技術の導入で労働環境の改善などにも取り組んでおります。こうした取組を通じて、今後とも持続可能なバスの事業を実現していく、そのように考えております。

引き続き総務局長の方からお話しさせていただきます。

○総務局長　総務局長の山口です。どうぞよろしくお願いします。

はじめに、現在、予算編成中でございまして、現状の説明にとどまる部分もございますがあらかじめ御承知おきくださいますようよろしくお願いします。

私からはコミュニティバスなど地域公共交通への支援についてお話をさせていただきます。

地域公共交通は都市活動や身近な地域での生活を支える移動手段でございます。都は、市区町村が地域の交通課題の解決に主体的に取り組めるよう、「東京における地域公共交通の基本方針」に基づきまして、コミュニティバスなどの導入に係る運行経費などへの財政的な支援を行ってきました。

今年度から物価高騰などに伴いまして、補助限度額を引き上げるとともに、ネットワークの再編を進める路線に対する運行経費の支援期間を５年に延長いたしました。加えまして、市町村総合交付金の政策連携枠におきまして、地域交通の新たな取組を新設しまして、市町村の皆様の取組を後押ししております。

今後とも、都民の身近な移動手段である地域公共交通の維持充実に、取り組んでまいります。私からは以上です。よろしくお願いします。

○行政部長　予定の時間になってしまっておりまして、ちょっと申し訳ございません。副知事から何かございますでしょうか。

○副知事　髙橋市長、こんにちは。副知事の佐藤智秀です。

○稲城市長　こんにちは。

○副知事　シルバーパスの利用実態の話、少しございました。先ほど髙橋市長の話もありましたけれども、10 月 1 日からシルバーパスを IC 化して、今まで磁気券で見せていましたけれども、まずは利用実態を把握していくということです。利用実態というのは回数だけじゃないと思うんですけれども、いろいろな意味でですね、対応を何かしらするにしてもやっぱり利用実態がないと何もできませんので、まずそこをしっかり把握していくということなんだろうと思います。

あと、当初予算の話で局長からもありましたけれども、まだ予算の編成中ですので、現状にとどまる部分もございましたけれども、いただいた御意見については来年度の予算編成の中で検討してまいります。本日の意見交換の内容や予算の措置状況については後日お知らせをさせていただければと思います。以上でございます。

○行政部長　知事からよろしくお願いいたします。

○知事　ありがとうございます。これからも意見、そして情報交換しっかりやってまいりましょう。ありがとうございました。

○稲城市長　副知事、ありがとうございました。

○行政部長　それでは稲城市・髙橋市長との意見交換を以上で終了させていただきます。本日はありがとうございました。

【日野市】

○行政部長　それでは日野市・古賀市長との意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からよろしくお願いいたします。

○知事　古賀市長、どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

○日野市長　よろしくお願いいたします。

○知事　先ほどもちょっと確認したんですけれども、日野市の方で１人１日当たりのごみの排出量が大変少ないということで、もう３年連続で全国１位と伺っております。人口 10 万人以上 50 万人未満のカテゴリーということですけれども、それでもやはり３年連続で１位ということは、やっぱり市民の意識も高く、いろいろ考えながら協力してもらっているんだろうなと、市民、事業者、そして行政一体となって取り組んでこられた成果だと思います。これからも手を携えながら資源循環を一層推進しまして「ゼロエミッション東京」の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

それではまず地域の課題と、それから都政に関しての御要望などをお聞かせいただければと思います。どうぞお始めください。

○日野市長　どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、意見交換の場を設けていただきまして心から感謝申し上げます。今後は更に東京都との連携関係を深めて、持続可能な日野市のまちを創ってまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は現在の日野市の取組と課題について発言をさせていただきたいと存じます。

スライドの１枚目をお願いいたします。

まず東京都と連携した取組について御紹介をいたします。

日野市では東京都の財政支援もいただきながら、子育て支援とまちづくりを一体的に進めております。令和７年度には西平山土地区画整理事業区域内に「あそびば」という公園を整備いたしました。整備に当たっては民間企業の協力のもと、C02 を吸収するコンクリート資材を採用するなど、環境に配慮した先進的な取組も取り入れております。

また令和９年度には、現在市内児童館のセンター館として建替えを行っている「まんがんじ児童館」の運営開始や、隣接する万願寺中央公園のインクルーシブ遊具設置を予定しております。今後も東京都が進める子育て分野の取組を組み合わせながら、日野市におけるまちづくりを進めてまいります。

続いて、多摩動物公園についてであります。

多摩動物公園は日野市にとって貴重な地域資源です。地域活性化には欠かせない施設であると認識しています。多摩動物公園は令和 10 年、再来年でありますけれども、開園 70 周年を迎えます。魅力の発信や地域活性化について、東京都と更に連携して取り組んでいきたいと考えております。

取組の紹介の最後に、市政運営の基本的な考え方について説明をいたします。

私は先人が築いてきた日野市のまちを大切に思っております。その上で、これまでの延長線にとどまらず、公約として３つの優先施策を掲げております。今後、市の基本計画として策定する「日野地域未来総合戦略」では、総花的な従来の行政運営から脱却し、選択

と集中を進め、市民や企業も巻き込んだ共創体制を一層推進してまいります。以上が日野市の主な取組であります。

ここからは日野市の現在の課題について発言をさせていただきます。

まず１点目が、「日野地域未来総合戦略」で優先して掲げたまちの土台づくりに関する課題についてです。

この総合戦略では限られた経営資源を効果的に活用し、将来の成長につなげる領域へ最優先で投資するため、戦略的ロードマップを設定いたしました。その第１段階として、災害対応、DX、公共施設管理、都市基盤の強化など、まちの土台を固める根を張る投資を進めていく考えです。

具体的には、都市計画道路３・４・24 号線の築造再開や土地区画整理事業、廃校になった小学校の利活用をはじめとした公共施設の総量適正化とサービス向上を両立する「縮充」に取り組んでまいります。

また、都市基盤整備と一体となった交通網の確保のため、特に市内を走るミニバス・ワゴンタクシーの運転手不足への対応は喫緊の課題となっております。東京都におかれましては、都市基盤整備等への財政的支援の継続や交通の担い手である運転手確保に対する更なる御支援を何とぞお願いいたします。

２点目は人材確保についてです。

こうしたまちづくりを進める上でも、自治体の人材不足は大きな課題となっています。財政的な支援をいただいても、事業を実施する人がいなければ、住民サービスにはつながっていきません。特に本市では公共事業への投資が今後避けられない中で、土木・建築職といった技術系職員の確保は喫緊の課題となっております。都・市区町村間の人材派遣にとどまらず、広域的な相互活用の仕組みを構築していただくなど、より一層の支援をお願いいたします。

最後に市立病院への経営支援についてです。日野市立病院を取り巻く状況は昨年度以上に厳しさを増しております。運転資金の不足により、令和７年度、令和８年度の２か年にわたり、それぞれ 10 億円の貸付けを行っております。更に令和８年９月には、これに加え資金繰り支援として１億円を緊急に貸付けいたしました。病院の資金繰りは大変厳しい状況でありますが、市による貸付けを今後も継続していくことは困難な状況です。こうした状況の中で、市立病院としても令和８年４月より地方公営企業法全部適用に移行し、経営に機動性を持たせました。更に令和８年度には「日野市立病院在り方検討委員会」を設置し、病院の抜本的な見直しに向け外部有識者による検討を実施中であります。

日野市立病院は救急医療、小児医療など採算性だけでは維持が難しい医療を担い、周辺地域を含む都民の安全・安心を支えております。こうした医療を将来にわたって提供するためには、多摩地域全体の中で市立病院の担う役割を明確にすることが不可欠であると考えております。東京都におかれましても、現在も多大なる御支援をいただいているところではありますが、地域医療構想における公立・民間医療機関の役割分担を明確にし、広域的な連携体制の構築を主導していただくとともに、政策医療への財政的・制度的支援を充

実していただきますようお願いいたします。

本日の内容は以上となります。引き続き、魅力ある多摩地域に向けた取組に主導的な役割を果たしていただけることを期待し、私からの発言とさせていただきます。

○行政部長　古賀市長、ありがとうございました。それでは知事から御発言お願いいたします。

○知事　何点かの御要望がございました。私は人材の確保ですね、この問題についてお話しさせていただきます。人手不足、様々な業界で足りない、足りないということで、これによる全体への影響は大変大きいものがあります。

一方で、いかにして都市機能を維持していくかということも極めて重要な課題でございますので、首都東京を支える担い手の確保などを強力に推進していくことは、重要だと認識しております。例えば自治体の DX ですね、これを加速させていく、そのために GovTech 東京と連携してデジタル人材を市区町村に紹介する、そして DX を牽引する人材の育成に向けました専門研修なども行っております。

また市区町村を含めて、技術人材の安定的な確保というのは本当にみんな苦労しているところではあるんですが、奨学金の返還支援制度を実施しておりますほか、政策連携団体と共に地元の自治体を支援する人材バンクの構築を進めているところでございます。

引き続き地元の自治体と連携しまして、この人材不足問題の解消を後押ししたいと考えております。総務局長から続けさせていただきます。

○総務局長　総務局長の山口でございます。よろしくお願いします。

はじめに、現在、予算編成中でございまして、現状の説明にとどまる部分もございますが、あらかじめ御承知おきくださいますようお願いいたします。

私からまず都市基盤に関わる財政面や人材面への支援の関係でございますが、まちづくりの基盤となる人材の確保につきましては、多角的な対策を関係者と連携しまして速やかに講じていくこと、これが不可欠でございます。お話のありました区画整理の分野では、事業の実施に向けまして技術的な助言や国に対する財源確保について働きかけを行うなど、これまで支援を行ってまいりました。

また、身近な地域での生活を支える移動手段でもあるバス路線の運転士不足に対応するため、都は事業者などと連携をしまして、若者や女性など新たな人材の採用につながる魅力発信や定着に向けた居住に係る支援、それから最新デジタル技術の導入による労働環境の改善などの取組を行っております。今後とも地域の持続的な発展に向けまして課題の解決を図ってまいります。

それから次に公立病院への支援の関係でございますが、誰もが質の高い医療を受けられて安心して暮らすことができるようにするためには、地域の医療提供体制、これをきちんと確保することが重要でございます。

現在、都では入院医療や外来・在宅医療、介護との連携、人材確保なども含めた 2040 年のあるべき医療提供体制の姿を示すために、新たな地域医療構想の策定に向けた検討を進めております。

また、公立病院の安定的な運営を支援していくために、提供する医療の内容や病床数に応じまして運営費を補助しております。今年度は公立病院の直近の経営状況を踏まえまして、補助金の算定基準となる単価について、見直し時期を前倒しして引上げを行いました。引き続き病院の経営を巡る厳しい状況を踏まえながら、支援を行ってまいります。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

○総務局長　市長、若干お時間残りますので、もし一言ございましたらお願いいたします。

○日野市長　いろいろきめ細かな対応をしていただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。私からは１点だけ触れさせていただくと、冒頭、多摩動物公園について触れさせていただきました。1958 年、昭和 33 年に開園した多摩動物公園でありますが、再来年、70 周年ということになります。日野市に所在しておりまして、京王動物園線と多摩都市モノレールの２駅が多摩動物公園駅という名称になっております。

しかしながら、日野市に多摩動物公園があるということがなかなか浸透しておりませんで、この辺り工夫をしながら貴重な地域資源である多摩動物公園とも連携したまちづくりを進めてまいりたいと存じますので、どうかその辺りも気に留めていただければ有り難く存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長　ありがとうございます。副知事から何かございますでしょうか。

○副知事　副知事の佐藤智秀です。こんにちは。本日は貴重な御意見をありがとうございました。いただいた御意見・御要望につきましては、来年度の予算編成がこれからございますので、検討してまいりたいと思います。また、本日の意見交換の内容に関します予算の措置状況などにつきましては、後日お知らせをさせていただければと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長　知事から最後に何かございますでしょうか。

○知事　日野の多摩動物公園ということで、しっかりと PR もしてまいりましょう。今日は意見交換、情報交換できまして誠にありがとうございました。共に頑張りましょう。

○日野市長　どうもありがとうございました。

○行政部長　ありがとうございました。それでは日野市・古賀市長との意見交換を以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

【狛江市】

○行政部長　それでは狛江市・松原市長との意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からよろしくお願いいたします。

○知事　松原市長、今日もよろしくお願いいたします。そしてまた３期目の御就任、誠におめでとうございます。

○狛江市長　ありがとうございます。

○知事　絵手紙などでも有名ですし、市民生活の質の向上ということに向けて様々な政策を展開されておられます。また子育ての施策を更に充実させていかれると伺っております。これからも連携をしっかり取りながら「チルドレンファースト」の社会の実現に向けまして取り組んでまいりたいと思っております。そして今日は地域の課題とそれから都政への御要望などをお聞きしたいと思います。じゃあ早速どうぞ、お始めください。

○狛江市長　よろしくお願いいたします。本日は大変お忙しい中、意見交換のお時間をいただきまして誠にありがとうございます。知事からもう既にお話がありましたけれども、６月 28 日に行われました狛江市長選挙におきまして再選をさせていただき、３期目をスタートしているところでございます。

市民の皆様方の暮らしということ、これを守っていかなきゃいけないということで、生活の質の向上を目指すことをテーマに掲げまして、人に優しいまちづくりにつながる施策を推進していくところでございます。これまでも保育料第１子無償化、給食費無償化補助など東京都の施策と連動をいたしまして、市独自の上乗せ支援を重ね合わせました結果、子育て世帯の経済的負担を切れ目なく軽減することができています。この結果、令和７年度は出生数が増加に転じるなど、都政の強力な推進を肌で感じているところでございます。

資料に基づきまして説明をさせていただきます。

①でございますけれども、時代のニーズに応えた市有施設のリニューアルということでございます。それから②につきましては、（仮称）西和泉スポーツ施設、③につきましては、ポンプ施設の計画概要の３点を御説明させていただきます。

まず資料①でございますけれども、時代のニーズに応えた市有施設のリニューアルということでございまして、近年、市では施設の長寿命化のために大規模改修に合わせまして、時代のニーズに対応したリニューアルを重ね、市民サービスの充実を図ってまいりました。

また資料①の右上、狛江市民総合体育館でございますけれども、この体育館は築 40 年を迎え老朽化が見られていたことから、大規模改修を行いまして、先日 10 月３日にリニューアルオープンをしたところでございます。

また資料①の下段でございますけれども、新図書館「こまえみライブラリー」、これも今度 11 月１日にオープンを予定しているところでございます。市の公共施設の改修・改築を、歴史ある良い部分は残し、新しいニーズを取り入れて実施しておりますが、特に、「こまえみらいテラス」のリニューアルオープン以降、連日多くの市民の皆様に御利用をいただいております。主な利用者層といたしましては、中高生、大学生を中心とした学生のほか、特に平日の午前中は、社会人が利用するなど幅広い方に御利用いただいている状

況となっています。市民となって初めてこの施設を利用したという声も届いておりますし、「こまえみらいテラス」内の小学生以下を対象とした図書館である「こまえみライブラリーkid's」の中に小さいお子様を乳母車で連れてきて、「子供が騒いでも怒らなくて済む」というような声もいただいております。

また中高生世代の居場所となるティーンズルーム、夏は避暑スペースといたしまして機能する「TOKYO クールシェアスポット」など、様々な機能を追加いたしまして、新たな交流・賑わいの拠点となっているところでございます。

続きまして、(仮称) 西和泉スポーツ施設でございますけれども、旧狛江第四小学校跡地におきまして、室内温水プール、体育館、学童クラブ、高齢者支援機能等を備え、災害時には避難所となるように防災機能も一体的に備えた (仮称) 西和泉スポーツ施設の整備を進めているところでございます。本施設は人生 100 年時代、誰もが利用しやすい健康づくりの拠点となる場といたしまして、令和 13 年度の供用開始を目指しているところでございます。本施設は、①といたしまして避難所機能を備えた体育館、②といたしまして学童スペース、③といたしまして高齢者支援機能、④といたしましてグラウンド、⑤といたしまして室内温水プール、この５つの機能を備えた、複合施設として整備する予定でございます。

具体的には、①の体育館や多目的ルームにつきましては、平日はスポーツの場として、災害時には地域の避難所・防災拠点としての機能を備えるように整備するところでございます。②の学童スペースにつきましては、多摩川住宅の建替えによりまして、地域の共働きの子育て世帯が増える見通しでございますので、小学生の放課後の居場所を確保することを想定しているところでございます。③の、高齢者支援機能は、現在高齢化率が高い地域でありますので、西和泉地域の近隣ではあるものの地域外に位置をしている「こまほっとシルバー相談室」を地域内に移転することで、より身近な相談窓口となります。④の、グラウンドは、多様なスポーツでの利用や震災時には避難場所となるオープンスペースとして、地域に欠かせない屋外空間としての整備を予定しているところでございます。⑤として、近年夏期の気温上昇、熱中症警戒アラートの頻発によりまして、屋外での活動が一層危険となる中、室内温水プールは天候や気温に左右されることなく、子供たちを熱中症のリスクから守り、安全に授業を実施することができる施設として特に重要でございます。

なお、概算事業費は当初の見込みを既に大きく上回ってございまして、昨今の物価高騰による建築費の更なる増額も見込まれる中でございますけれども、防災、子育て、高齢者支援、健康増進を一体的に実現するには、この施設はまさに東京都が掲げる“「人」が輝き、活力に溢れ、安全・安心な東京へとさらに進化させる”というこのスローガンを体現するモデルとなると思います。

また「2050 東京戦略」及び「多摩のまちづくり戦略」に掲げる“地域の魅力にあふれ、快適で充実した暮らしをかなえる行きたい・住みたい多摩”の実現に向けまして、これまでも様々な御協力をいただいておりますけれども、今後も東京都と市が引き続き強固に連携してまちづくりを進めていけるようお願いを申し上げます。

最後に、ポンプ施設の計画概要でございますけれども、狛江市は多摩川沿いに低地が広がってございますので、水害対策は重要な施策の１つでございます。令和元年の東日本台風におきまして甚大な水害被害を受けたことを教訓に、浸水被害の防止に向けまして、ハード面では河川水位監視カメラの設置や、また排水ポンプ車の導入、逆流防止ゲートの設置を行いまして、ソフト面では雨水浸透桝設置補助や止水板設置工事等補助の整備といったハード・ソフト両面で施策を積み重ねてまいりました。

現在は猪方・六郷の両排水樋管、この近接部へのポンプ施設整備を進めてございまして、特に「六郷排水樋管」につきましては、調布市と連携しながら着実に推進をしているところでございます。

東京都の「TOKYO 強靭化プロジェクト」に関連をいたしまして、2.5％だった都補助が25％と大幅に引き上げられたことは大変有り難い拡充施策でございます。ありがとうございます。

しかしながら、浸水対策に係る費用の負担が大きいので、下水道使用料の改定に取り組むなど努力をしておりますけれども、流域下水道の維持ということで、また色々な経営にも深刻な影響を及ぼすこともありますので、どうぞ補助、御支援を賜りますようよろしくお願いをいたします。

これは恐らく、多摩地域に共通する課題でございますので、都と市が一体となって治水対策を行っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。少し長くなりましたけれども、私からの意見は以上でございます。ありがとうございます。

〇行政部長　松原市長、ありがとうございました。それでは知事から御発言お願いいたします。

〇知事　今地域で取り組んでおられること、よくお伝えいただきました。

〇狛江市長　ありがとうございます。

〇知事　狛江市を含むこの多摩の成長に向けましては、都市機能の集積を図るということと既存のストックを有効に活用するという、メリハリのあるまちの実現が重要でございます。そのために都は多摩の地域特性を生かしまして、地元の自治体のまちづくりを後押ししてきたというのは御存じの通りでございます。

そして多摩地域における2050年代の将来像を「多摩のまちづくり戦略」で策定したのが去年の３月でございます。その中で「TAMA 拠点形成プロジェクト」における拠点に狛江、それから和泉多摩川を位置づけております。まちづくり方針案の策定などに対しての助言や支援を行っているところでございます。

またこれからも市のまちづくりが円滑に進められますように、「まちづくり推進コンシェルジュ」という窓口を設けておりますので、是非そちらも御相談いただければと思います。これからも地元の自治体の皆様方と連携を図りながら、地域特性を生かした拠点づくりを推進してまいります。

続きまして総務局長から御説明させていただきます。

〇総務局長　総務局長の山口でございます。よろしくお願いします。

はじめに、現在、予算編成中でございまして、現状の説明にとどまる部分もございますが、あらかじめ御承知おきくださいますようよろしくお願いいたします。

私からは下水道の雨水対策についてお答えさせていただきます。

多摩地域の浸水対策の取組につきましては、頻発する集中豪雨などに備えまして都と市町村が連携をして浸水リスクの高い地域を重点化して対策を進めることが重要でございます。

都は、市町村が行う雨水幹線の整備などを促進するために、市町村が負担する費用の２分の１を補助しております。ポンプ施設につきましては、これまで設計に対する補助を行っておりまして、今後の工事に当たりましても補助制度を活用いただきたいと思います。

また、技術におきましては、市町村が計画的・効率的に対策を進められるよう、都は技術講習会の開催や様々なノウハウの共有などを行っております。引き続き、狛江市が抱える課題をよくお聞きしながら、財政と技術の両面からの支援に取り組んでまいります。

私から以上です。よろしくお願いいたします。

○行政部長　お時間となっておりますけれども、開始が若干遅れましたので、松原市長、最後に何かございましたら一言お願いいたします。

○狛江市長　ありがとうございます。知事がよく狛江のことを言われる「岸辺のアルバム」の所でですね、実はステラーダイカイギュウという全身骨格が出てまいりまして、130 万年前なんですよ。その全身骨格が出てきて、これが世界最古だと言われているんですよね。これからそのレプリカを作ったり、あるいは子供が遊べるような何かを作っていきたいなということで、今進めてございまして、既に国立科学博物館で展示があって、その展示の時に国立科学博物館が愛称募集したら「コマギュウ」という名称になったんですよ。それは名付けた方が「狛江で発見されたステラーダイカイギュウ」ということでね、どちらかというと可愛らしいんですよ。ぎゅっと抱きしめたいような、そういうステラーダイカイギュウらしいんですよ。これを狛江の魅力として挙げていきたいので、是非ともこれにつきましても御支援賜りますようお願いいたします。

○行政部長　ありがとうございます。副知事からございますか。

○副知事　令和元年の東日本台風では小池都知事にも現場を御確認いただいて、先ほど市長から御説明がありましたけれども、いろいろな財政措置の拡充ですとか、あとは下水道局は本来その 23 区を守備範囲にしているんですけれども、そこの部分を超えてですね、地域のノウハウの提供だとか、いろいろな対策を取っているところであります。いずれにしても東京都としてはそういった対策をしっかりやっていくということなんだろうと思います。予算編成の中でいろいろ検討してまいりますし、また本日の意見交換の内容に係る予算の措置状況などにつきましては、後日お知らせをさせていただければと存じます。以上でございます。

○行政部長　ありがとうございます。知事から最後に何かございますでしょうか。

○知事　130 万年前？

○狛江市長　そうです。

〇知事　何紀になるんですかね？

〇狛江市長　まだ人類がいなくて、恐竜の後ですね。

〇知事　「コマギュウ」ですね。

〇狛江市長　あと10m神奈川県側だったら川崎から出たってことになったんです。あと10mこちら側で狛江になりました。

〇知事　そうなんですか。またそういう発信もしてまいりましょう。今日はありがとうございました。

〇狛江市長　どうもありがとうございました。

〇行政部長　それでは狛江市・松原市長との意見交換を以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

【町田市】

〇行政部長　それでは町田市・稲垣市長との意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からよろしくお願いいたします。

〇知事　稲垣市長、今日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。市長になられて子供に優しいまちづくりを、町田市ではずっと積極的に進めてこられておりますけれども、年少人口の転入の増加数が令和７年、全国で１位になるということで、子育て世帯から選ばれるまちとして着実に成果を上げておられます。これからも連携を取りまして、「チルドレンファースト」の社会の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。

それでは早速、地域の課題、また都政に対しましての御要望などについてお聞きしたいと思います。どうぞお始めください。

〇町田市長　小池知事、都庁の皆様、こんばんは。町田市長の稲垣康治でございます。この度は大変貴重な機会をいただきありがとうございます。

私は今年３月、医師から転身をして市長に就任いたしました。就任以来、市民の健康、教育の推進、地域の活力の３つを大切に、市民の皆さん一人ひとりが「町田に住んで良かった」と心から思える、「誇れる町田」を目指してまちづくりを進めております。

その中でもとりわけ市民の健康について一翼を担っております町田市民病院は、市民の命と健康を守るために欠かせない公共インフラでございます。「いざという時に安心して頼れる病院であってほしい」という市民の願いに応えるため、そして将来にわたってそれが継続できるように市民病院改革に着手し始めたところでございます。

この町田市民病院に対して東京都から小児科医を派遣していただいているということに、まず感謝を申し上げたいと思います。引き続き、町田市民病院の救急医療体制を強化していくとともに、高齢者が自分らしく健康に過ごせるようかかりつけ医と連携した仕組みづくりにも注力してまいりたいと思います。

今後とも様々な取組において東京都と密に連携していきたいと考えておりますので、御支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは項目の１点目、「持続可能な公立病院経営に向けた支援の拡充」について説明をさせていただきます。

全国の公立病院では救急、小児、周産期などの政策的医療を担う必要があり、構造的に赤字になりやすいという課題がございます。2025 年度においては公立病院の 81.2％が赤字であり、町田市民病院も同様に厳しい経営状況に直面しております。

そのような中、東京都からは公立病院運営事業補助金として毎年度約５億円の補助金を市民病院にいただいており、貴重な収入となっております。改めて感謝申し上げます。

この補助金額は、病床数をもとに経営状況などを踏まえて算出されております。単価である病床基礎額については今年度から増額していただきましたが、一方で経営状況を指数化した経営評価指数についてはコロナ禍の緩和措置が終了し、町田市民病院では指数が下がる見込みでございます。加えて、経営状況を圧迫している要因の１つに周産期母子医療がございます。地図を御覧いただくとお分かりいただけるように、町田市民病院は広域な

南多摩地域で唯一の「地域周産期母子医療センター」の指定を受けております。24 時間 365 日の受入れ体制を整え、妊産婦が安全かつ安心してお産ができるよう幅広い周産期管理を実施し、ハイリスク妊産婦やNICUの新生児を受け入れております。

この周産期医療においては収支不足の１億 5,000 万円について町田市が負担をしておりますが、市においても人件費や扶助費の増加、物価高騰の影響を受け、大変厳しい財政状況が続いております。町田市民病院では救急応需率の向上など、経営改善に向けた取組を進めているところでございます。救急の受入れにつきましても県境ということで、神奈川県との連携も重要であると考えております。

今後も持続可能な医療提供体制を維持するため、特に南多摩地域唯一の地域周産期母子医療センターとしての機能を維持するために、東京都からの補助制度の拡充、より一層の御支援をお願いしたいと存じます。

続きまして、項目の２点目、「小中学校増改築事業に関する補助制度の拡充」についてでございます。

町田市では、文部科学省が公表した「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の提言を踏まえ、学校が教育活動だけではなく地域と連携・協働するための地域活用型学校となるよう、新たな学校づくりを進めております。

この提言を具体化している「町田市立学校施設機能別整備方針」に基づいて学校を建設する場合、文部科学省が補助金算定の基礎として定めている校舎必要面積と、実際の整備において必要となる実整備面積の間に約1.22倍の乖離が生じております。

また、昨今の物価高騰の影響により、施設整備費が大幅に増加しております。令和７年度の事業費試算では令和３年度時に比べて 1,905 億 5,000 万円増加しており、結果として工事の実施単価と補助単価には約2.4倍の乖離が生じている状況でございます。

令和11年度に開校予定の鶴川中央小学校を例に御覧いただきますと、総工事費133億円に対し補助合計は22億8,000万円であり、工事費の約６分の１にとどまっております。

こうした現状の公立学校施設整備負担金につきまして、改築単価及び負担率や補助金算定に関わる必要面積についての見直しを、是非国に働きかけていただきたいと存じます。

町田市の新たな学校づくりは、学校施設を複合化・多機能化して公共施設としても利用しようという全国に先駆けた取組でございます。国の見直しまでの間、東京都におきましても現行の枠組みにとどまらない新たな考え方に基づいた補助制度を創設していただけますようお願いいたします。

以上、私から２点、お話をさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長　稲垣市長、ありがとうございました。それでは知事から御発言お願いいたします。

○知事　市長御自身が医療に携わってこられました。その市長の方から今、公立病院、特に周産期医療についての支援についてお話がございました。

誰もが質の高い医療を受けられ、そして安心して暮らすということ、そのためには地域の医療提供体制を確保することは重要でございます。お話しいただいた町田市民病院でご

ざいますけれども、地域における基幹的な公的医療機関であり、また南多摩地域における唯一の周産期母子医療センターとして重要な役割を果たしております。

都は、この周産期母子医療センターの運営、施設・設備整備、この支援をして、また令和７年度から 24 時間体制が必要な産科などの患者さんの受入れ体制を確保する病院への支援を実施いたしているところでございます。

また、国に対しても補助制度の拡充など医療制度、その体制の充実を要望いたしております。やはり都民が安心して出産し、また子育てができ、更に住み慣れた地域で暮らし続けられますように、引き続き病院の支援を行っていく考えでございます。

続けて総務局長の方から説明させていただきます。

○総務局長　総務局長の山口です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、現在、予算編成中でございまして、現状の説明にとどまる部分もございますが、あらかじめ御承知おきくださいますようお願いいたします。

私からもまず引き続き公立病院の支援について御説明をいたします。

都は公立病院の安定的な運営を支援するため、周産期医療など、提供する医療の内容や病床数などに応じて運営費を補助しております。今年度は公立病院の直近の経営状況を踏まえまして、補助金の算定基準となる単価について見直しを前倒しして引上げを行いました。引き続き公立病院の経営を巡る厳しい状況を踏まえながら支援を行ってまいります。

続きまして、公立小中学校の施設整備の関係でございますが、町田市におきましては小中学校の建替え、それから老朽化対策など、今後も施設整備に伴う財政負担が見込まれることは承知をしております。そのため、都では小中学校の施設整備計画などに基づきまして、市が地域の実情に応じて推進する取組が実現できるよう、国に対して補助制度の拡充を要望してきたところでございます。引き続き対象工事の拡大、補助単価や補助率の引上げなど制度の拡充を要望してまいります。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

○行政部長　稲垣市長、若干お時間ございますので、何かございましたら御発言お願いします。

○町田市長　御回答ありがとうございました。是非前向きに御検討いただければと思います。

私から１点お伝えしたいことがございまして、私、生まれも育ちも町田でございまして、私が幼少の頃から町田へのモノレール延伸という話がずっとありまして、町田市民の悲願でもございます。ですので、多摩都市モノレールの町田方面延伸につきまして、引き続き東京都、知事からの御支援、応援をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長　ありがとうございます。副知事から何かございますでしょうか。

○副知事　稲垣市長、副知事の佐藤智秀です。こんにちは。本日は貴重な御意見ありがとうございました。まだ予算編成中で、最初のところで総務局長の方からお話がありましたように、まだ現状の説明にとどまる部分もございましたけれども、いただいた御要望・御

意見につきましては来年度の予算編成の中で検討していくこととしております。本日の意見交換の内容に係る予算の措置状況などにつきましては、後日お知らせをさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長　知事から最後に何かございますでしょうか。

○知事　周産期医療ということで大変大切なことだと思います。都もこれまでも、またこれからもサポートしていきたいと考えておりますし、これからも情報交換、意見交換していきたいと思います。今日はありがとうございました。

○町田市長　ありがとうございました。

○行政部長　それでは町田市・稲垣市長との意見交換を以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

本日の意見交換は以上で終了となります。ありがとうございました。